

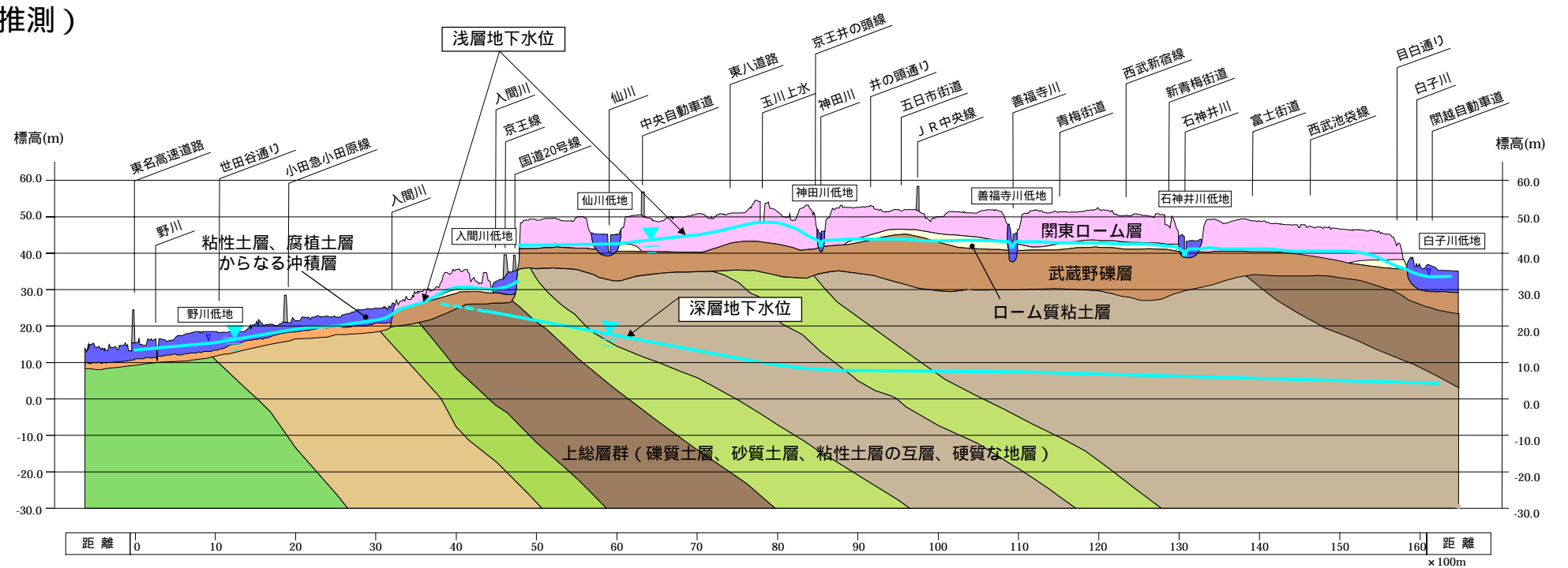
(参考)

< 路線沿いの地質と地下水の流れ > (文献資料等からの推測)

地表から関東ローム層が約 10m、その下に武蔵野礫層が約 5~10m、その下に上総層があると考えられます。

関東ローム層は粘土質で軟らかく、武蔵野礫層は砂、細かい石が混じりあった層で硬く、上総層は砂と粘土が混じり合って硬く締まった地層です。

地表から約 7~10mの深さに浅層地下水面と、約 30~50mの深さに深層地下水面の 2 面あると考えられます。



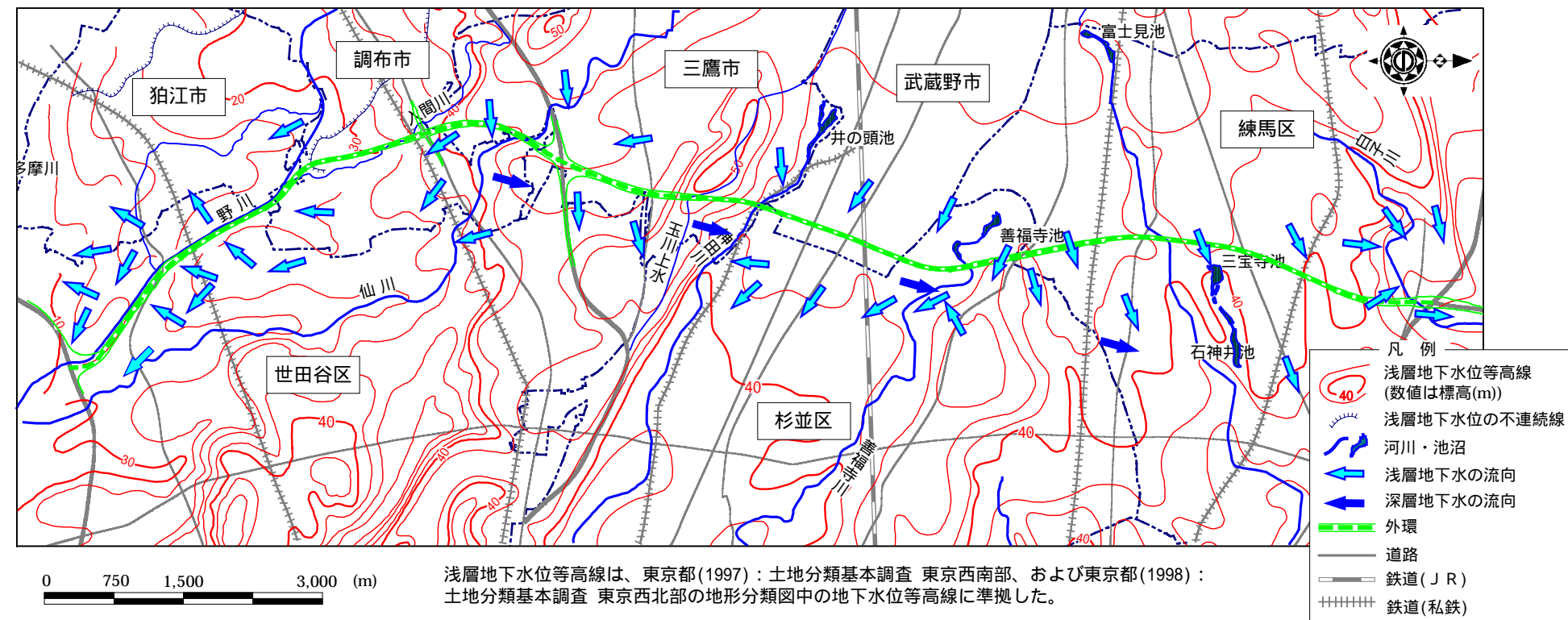
備考)・浅層地下水位は、東京都(1997): 土地分類基本調査東京西南部、および東京都(1998): 土地分類基本調査東京西北部の地形分類図中の地下水位等高線に準拠した(豊水期のデータ)。
 ・深層地下水位は、東京都土木技術研究所の地盤沈下調査報告書のデータ等に基づき、各地層毎に再整理した結果を示した。
 なお、入間川低地付近より南側の水位については、データが無いため記載していない。

図 - 1 路線沿いの地質と地下水位の位置

浅層地下水は、全体的には西から東の方向に流れており、地形や河川の流れによって流れの方向が場所によって変化していると考えられます。

深層地下水は全体的には南から北の方向の流れていると考えられます。

各地下水の流れの速さ等については、現地でのボーリング調査等が必要です。



浅層地下水位等高線は、東京都(1997): 土地分類基本調査 東京西南部、および東京都(1998): 土地分類基本調査 東京西北部の地形分類図中の地下水位等高線に準拠した。

図 - 2 路線沿いの地下水位 (浅層地下水) の標高と地下水の流向